

令和元（2020）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ジェンダー論(Gender) 132031-14000					担当教員	米 山 宗 久 (ヨネヤマ ムネヒサ)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL/外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
ジェンダー、つまり「男らしさ」や「女らしさ」が社会や文化によってつくられたものであることが指摘されている。つまり「男はこうすべきだ」とか「女の役割はこうあるべきだ」という仕組みが存在している。ジェンダーに関する基本的知識・基礎的概念を学び、社会や家族のあり方、様々な人間関係をジェンダーの視点から考え、平等な社会に向けての必要な支援を学修することを目的とする。また、LGBTに対する人権問題として対応も併せて学修する。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力/コミュニケーション能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
教科書に基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。小レポートを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
社会学の単位を取得していることが望ましい。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) ジェンダーに関する基礎知識を理解する。 (ii) LGBTに関する知識を理解する。 (iii) 家族内における性別役割を理解する。 (iv) 労働における格差を理解する。 (v) 男女共同参画を理解する。									
⑥ テキスト（教科書）									
伊藤公雄・牟田和恵(2019)『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社									
⑦ 参考図書・指定図書									
授業において紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			40%		10%		100%
(i) ジェンダーに関する基礎知識を理解	10%			8%		2%		20%
(ii) L G B Tに関する知識を理解	10%			8%		2%		20%
(iii) 家族内における性別役割を理解	10%			8%		2%		20%
(iv) 労働における格差を理解	10%			8%		2%		20%
(v) 男女共同参画を理解	10%			8%		2%		20%
フィードバックの方法	レポートは、発表と解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業を希望している学生は必ず受講してもらいたい。小レポートを5回程度行う。外部講師招聘時は予習として課題を提示する。

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	イントロダクション	テキスト	ジェンダーという視点が生み出したものを理解 30分
2	子どもの社会化とジェンダー	テキスト	他者との相互作用を通じて作られていくことを理解 60分
3	学びとジェンダー	テキスト	学校教育の場における性差別を理解 60分
4	ことばとジェンダー	テキスト	ことばの使い方、男女を現すときに使われることばを理解 60分
5	恋愛とジェンダー	テキスト	恋愛のリスク化を理解 60分
6	就活とジェンダー	テキスト	ワーク・ライフ・バランスを理解 60分
7	労働におけるジェンダー	テキスト	性別役割分業の形成を理解 60分

8	ジェンダー化された家族	テキスト	家庭内の業務分業を理解	60分
9	LGBT	テキスト	セクシュアル・マイノリティを理解	60分
10	ジェンダー化された遊び	テキスト	遊びを通じたジェンダー・アイデンティティを理解	60分
11	ジェンダー観の変化	テキスト	ジェンダーに関する男女の悩みを理解	60分
12	ファッションと社会	テキスト	おしゃれや服装の性別化を理解	60分
13	友人関係とジェンダー	テキスト	友人とのつながり方の男女差を理解	60分
14	国際結婚とジェンダー	テキスト	グローバル化と人の移動を理解	60分
15	ケアにおけるジェンダー	テキスト	ケアによる人間関係や社会のありようを理解	60分

#### ⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型ALを採用する。小レポートを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型ALでは、グループワーク、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

#### ⑫ 実務経験のある教員による授業科目

##### 実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

#### 実務経験と授業科目との関連性

社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、人間が住み続けることには、住環境を整備することでより快適により安全に生活できることを学生に伝えることができる。

たとえば、普段使っているシャンプー・リンス・ボディソープの容器を選別すること、そこには障害のある人もない人も通常使えるバリアフリーデザインなどの必要性を伝えることができる。さらに実体験として普段から見慣れている社会環境にも目を向ける必要性も伝えることができる。

また、高齢者保健福祉計画や障害者副計画においても、介護の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。